

8. 世界の人口動向と日本の立ち位置

戸沼幸市 (早稲田大学 名誉教授、(一財)日本開発構想研究所 顧問)

1. 日本の人口推移と2070年の人口予測

1-1. 2070年の日本の人口-8,700万人

この4月26日、国立社会保障・人口問題研究所は、21世紀の日本の人口は2000年、1億2,693万人をピークに減り続け、2056年に1億人を割り、2070年に8,700万人(出生中位)との推計を公表しました。

人口減少に関わる主な指標として、
合計特殊出生率：

2021年 1.30→2070年 1.36

出生数、2022年初めて80万人を割り、70万人を割るのは2038年、2070年には45万人に。

平均初婚年齢：

2023年 27.2歳→2070年 28.6歳

50歳での未婚の人の割合：

2023年 15.0%→2070年 19.1%

晩婚化、結婚しない若者

夫婦の最終的な子供の数の平均：

2020年 1.83人→2070年 1.71人

平均寿命 2020年 2070年

男： 81.58歳 85.89歳

女： 87.72歳 91.94歳

100歳以上の人口が50万人になり、出生数を上回る(67年)。

なお、日本に在住する外国人の割合をコロナ禍前の年間16万人ベースで増えると見込んで、現在(2020年)、2.2%から、10.8%(総人口の1割)と見積もっての8,700万人です。

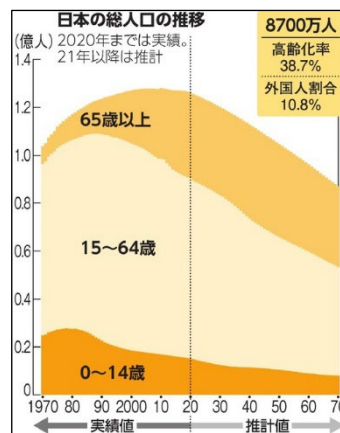
この事態に対して、日本の未来については様々な懸念課題が指摘されています。

- ・少子化加速、備えが不可欠、子育てしやすい環境づくりの必要
- ・日本各地で人手不足、地方の取り組み、地方創生、近隣市町村の連携必要
- ・生産年齢人口(15~65歳)、3,000万人減、社会経済にダメージ大
- ・85歳以上の要介護、6割に上がる。高齢化率が高まる。東京など大都市圏に深刻な課題

- ・生活基盤の維持厳しい、水道の老朽化など
- ・医療、高齢者増加、医療介護など、2040年3割増し、1,070万人に
- ・労働力不足、1,100万人。外国人の受け入れ必要
- ・GDP、現在の3位から5位に。インド、ドイツに抜かれる
- ・先端技術、AIなど
- ・規模に見合った住みやすい社会をどう構築するか
- ・8,700万人の日本の人口の地域的分布、東京一極集中が続くと見るのか、他のシナリオが描けるのか。

人口の分布についての国立社会保障・人口問題研究所の調査と推計が待たれます。

図1 日本の総人口の推移



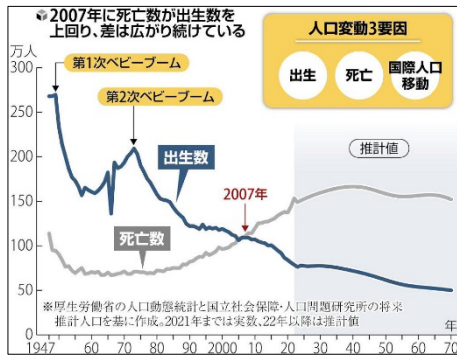
資料：朝日新聞 2023.4.27

表1 将来人口推計のポイント

	2020年国勢調査	2070年推計値
総人口	1億2615万人	8700万人
年少人口 0~14歳	1503万人 (11.9%)	797万人 (9.2%)
生産年齢人口 15~64歳	7509万人 (59.5%)	4535万人 (52.1%)
高齢者人口 65歳以上	3603万人 (28.6%)	3367万人 (38.7%)
合計特殊出生率	1.33	1.36

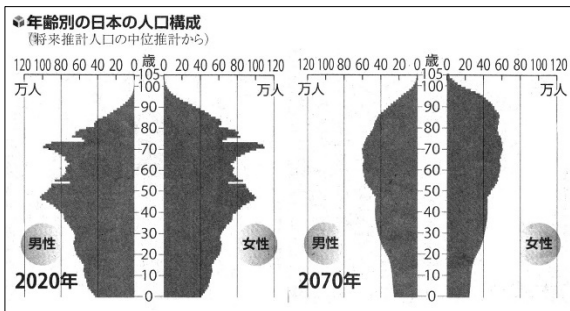
資料：読売新聞 2023.4.27

図2 2007年に死亡数が出生数を上回り、差は広がり続けている



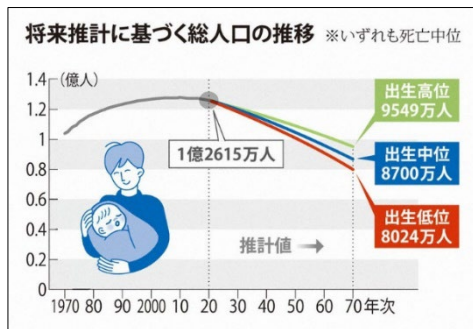
資料：読売新聞 2023.4.27

図3 年齢別の日本の人口構成



資料：読売新聞 2023.4.27

図4 将来推計に基づく総人口の推移



資料：読売新聞 2023.4.27

表2 2040年には労働者の大幅な不足が見込まれる

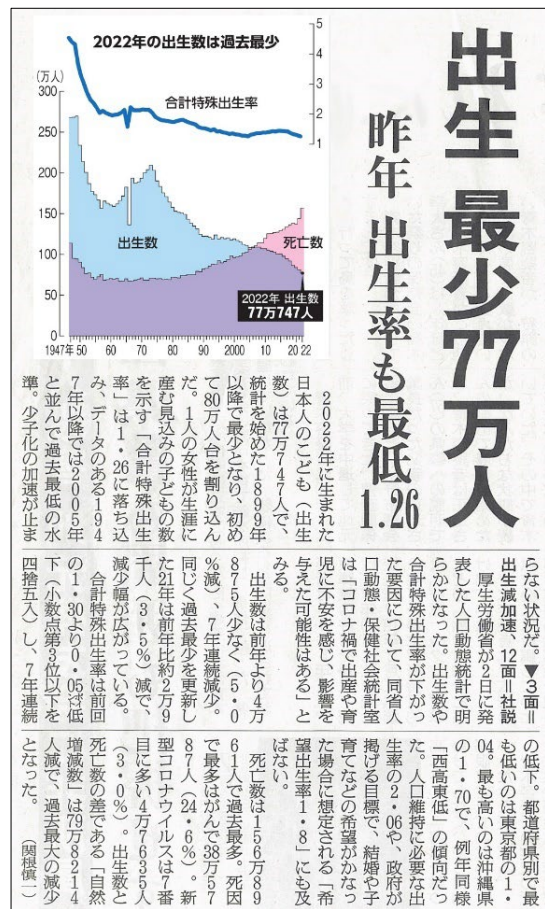
主な職種	不足数
輸送・機械運転・運搬	99万8000人
建設	65万7000人
生産工程	112万4000人
商品販売	108万9000人
介護サービス	58万人
接客給仕・飲食物調理	56万6000人
医師・看護師・薬剤師などの保健医療専門職	81万6000人
事務職や技術者、教員や弁護士などの専門職	156万6000人

※リクルートワークス研究所の試算

2040年には労働者の大幅な不足が見込まれる

資料：読売新聞 2023.4.27

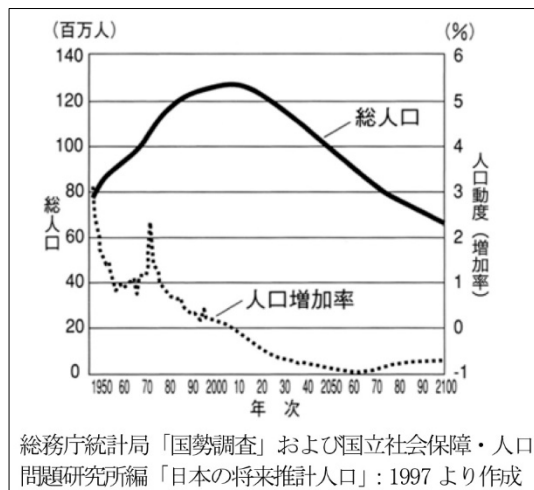
図5 出生 最小77万人



資料：朝日新聞 2023.6.3

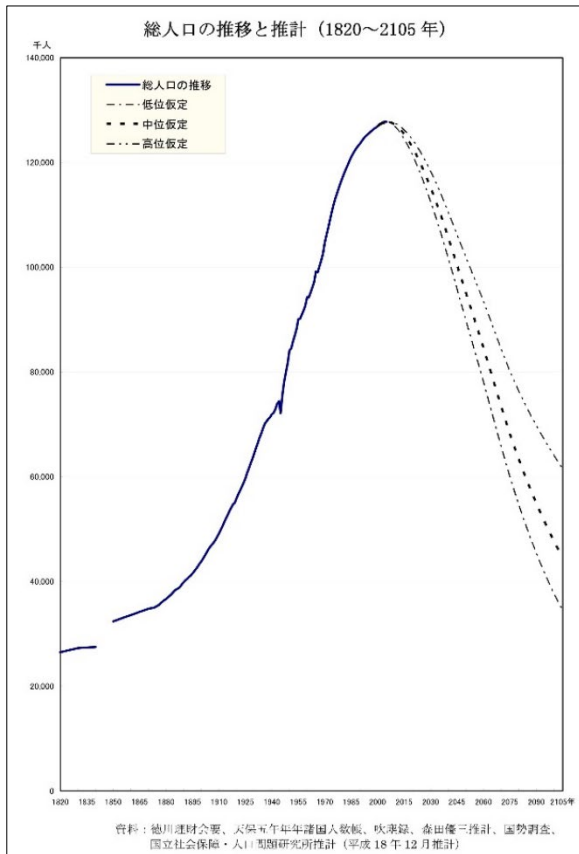
なお、私ども日本開発構想研究所UEDレポート復刊第1号(2007年1月)で、「人口減少社会の研究—人口減少社会の将来像・国のかたち、地域のかたち」を特集しています。

図6 総人口および人口増加率の現状および将来推計(1947~2100年)



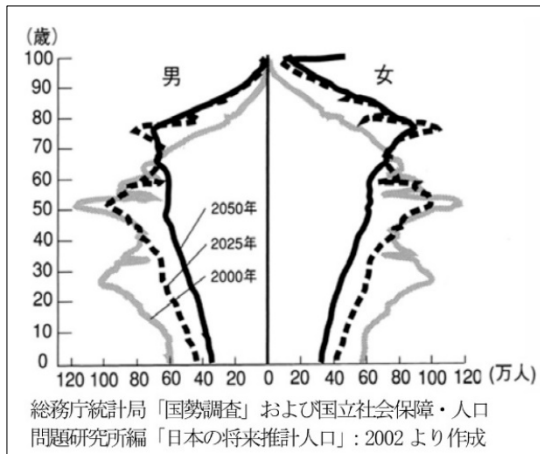
資料：UEDレポート 2007.1

図7 総人口の推移と推計



資料：UEDレポート 2007.1

図8 人口ピラミッドの変化



資料：UEDレポート 2007.1

1-2. 日本の人口史

数万年前、日本列島に初めて人間が住むようになってからの日本の人口史はそのまま日本の歴史に結びついています。そして、人口史は人間と自然との対応の段階的進化と見合ったものとして受けとれます。

人口の拡大を直接支持したと思われる技術

や方法として、次のものをあげることができます。

- (1) 食料生産の技術
- (2) エネルギーおよび資源生産の技術
- (3) 医療に係る技術
- (4) 居住空間生産の技術—家や村、都市を作る技術、重ねて情報の技術
- (5) 人口の組織化、社会組織の方法

【日本の人口史】

第一期 自然系時代の人口期

第一段階 (0～数万人)

- ・ 数万年前からBC 8～7千年
- ・ 日本における人類の出現から旧石器時代まで
- ・ 自然物採取
- ・ 最初の家 (穴居)

第二期 自然—人間系時代の人口期

第二段階 (10万人を超えて数十万人に)

- ・ BC 8-7千年からBC 3世紀
- ・ 新石器・縄文文化時代
- ・ 自然物採取+初期農業
- ・ 家の改良 (竪穴式住居) と集落の発明

第三段階 (百万人台へ)

- ・ BC 4～3世紀～AD 3世紀
- ・ 弥生文化時代
- ・ 初期農業・水田稲作の始まり
- ・ 村への定住

第四段階 (～5-600百万人)

- ・ AD 3-4世紀～6-7世紀
- ・ 古代国家の誕生まで
- ・ 農業の発展
- ・ 村から国へ

第五段階 (～7-800万人)

- ・ 7世紀から11世紀
- ・ 奈良・平安時代
- ・ 土地の公から私有へ、荘園による農業の急増
- ・ 都の発達と国土空間の推移

第六段階 (1000万人を突破、1800万人へ)

- ・ 12世紀～17世紀中葉
- ・ 鎌倉・室町・戦国時代を経て秀吉の全国統一まで
- ・ 農地拡大、二毛作などによる農業の発達
- ・ 地方的定住拠点の強化と多核化による諸領域の交差 (もしくは近畿生活圏と関東生活圏の)

衝突)
第七段階 (1800万～3000万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・17世紀中葉～19世紀中葉まで ・江戸時代 ・労働集約型農業の完成 ・国土クローズドシステム (安定封建制) の完成
第三期 自然-人間・機械系時代の人口期
第八段階 (3000万人～7000万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀後半～20世紀前半 ・エネルギー革命により自然への働きかけが人間・機械系に ・農業社会から工業社会へ ・国土はクローズドシステムからオープンシステムに ・近代都市の発生
第九段階 (7000万人から1億2000万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・21世紀中葉から1980年代 ・太平洋戦争 (7380万→7210万人)、明治以来初めて減少 ・人口爆発・巨大人数社会へ ・エネルギー革命の上に情報革命 ・千万人オーダーの巨大都市・巨大都市圏の発生と発達 ・生活圏の地球大への拡大
第十段階 (1億2000万人～1億人～8000万人)
<ul style="list-style-type: none"> ・21世紀初頭、人口劇的に減少、2070年、8,700万人 ・少子高齢化社会へ ・国際居住の進展 (日本に住む外国人1割に)

- ・AI情報革命の進展
- ・東京一極集中の国土構造の変化?
- ・巨大災害 (地震など) は起こるのか

資料:「人口尺度論-居住環境の人間尺度」戸沼幸市
彰国社 1980.12 (第十段階追加)

2. 世界人口の推移と課題

昨年、2022年11月世界の人口は80億人を越えたことが国連により報告されました。

世界の人口推計について、国連 (経済・社会部門) の推計によると、

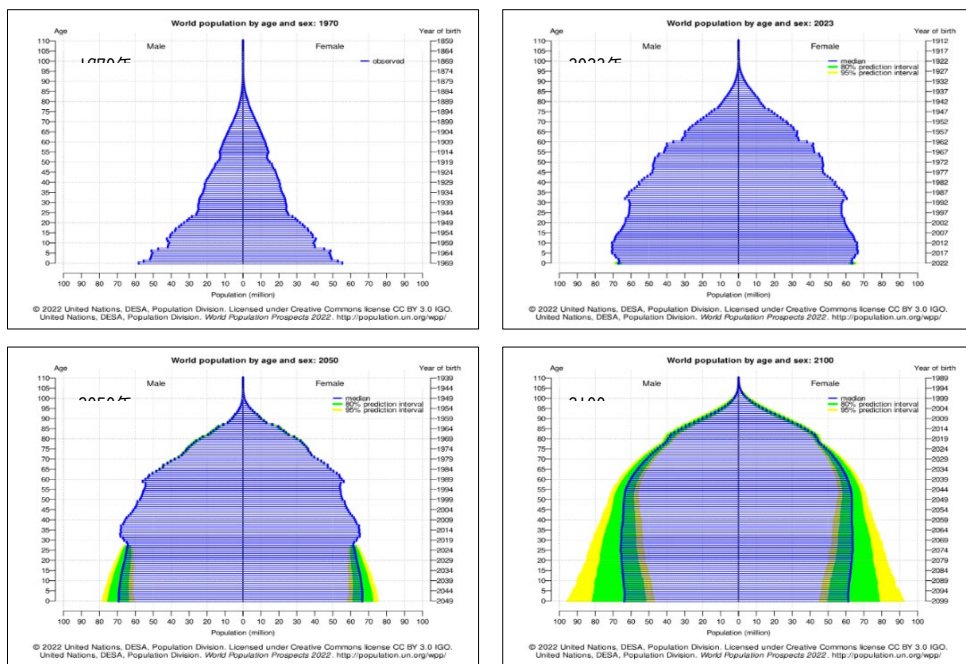
1. 世界人口は2050年まで増加を続ける (2050年で約97億人)。ただし、増加率は低下していく。
2. 2022年現在では、東・東南アジアが最大の人口を抱えているが、2030年代には中央・南アジアに抜かれる。
さらに、サハラ以南のアフリカが急速に追いついている。
3. 国別の順位の変化。中国が減少に転じ、インドが第1位となる。また、ナイジェリア、コンゴ、エチオピアのアフリカ諸国が10位以内に入ってくる。
4. 人口増加率と貧困。サハラ以南のアフリカの多くの国が人口増加率と貧困率の双方が高い。
5. 2100年までの長期の中位推計では世界人口は2050年で97億人。2100年で104億人。
6. 同じく2100年までの地域別推計ではサハラ砂漠以南のアフリカがトップに。

表3 世界の主要地域別推計人口 (1750～1900年)

地域	総人口 (100万人)				人口密度 (人/km ²)			
	1750年	1800年	1850年	1900年	1750年	1800年	1850年	1900年
アフリカ	106	107	111	133	3.5	3.5	3.7	4.4
ラテンアメリカ	16	24	38	74	0.8	1.2	1.8	3.6
北アメリカ	2	7	26	82	0.1	0.3	1.2	3.8
アジア	498	630	801	925	18.1	22.8	29.0	33.5
ヨーロッパ	125	152	208	296	25.3	30.8	42.1	60.0
オセアニア	2	2	2	6	0.2	0.2	0.2	0.7
(旧) ソ連	42	56	76	134	1.9	2.5	3.4	6.0
世界	791	978	1262	1650	5.8	7.2	9.3	12.1

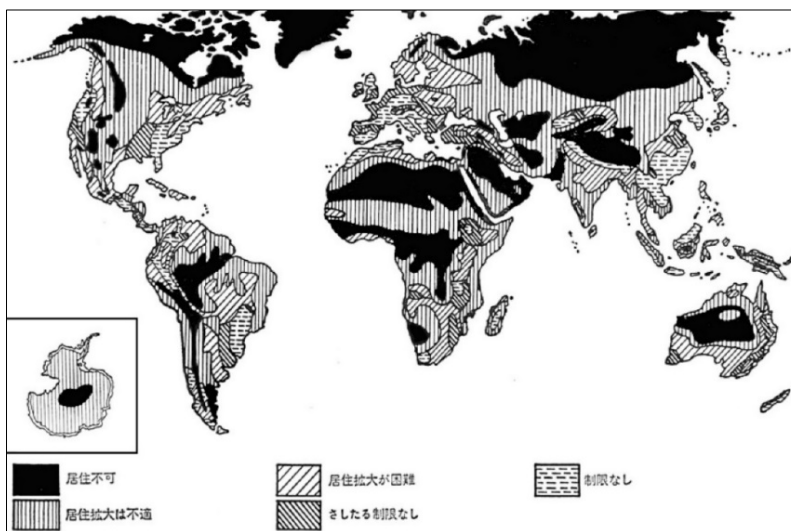
資料: Durand, J.D. 1967 "The Modern Expansion of World Population," *Proceedings of the American Philosophical Society*, Vol.3, No.3)

図9 世界人口ピラミッド型が釣り鐘型に



資料：United Nations, World Population Prospects 2022

図10 地球の可住地、非可住地



作成：C.A.Doxiadis：Ecumenopolis より作成

資料：「人口尺度論－居住環境の人間尺度」戸沼幸市 彰国社 1980.12

表4 主な国の総人口の長期的な増減

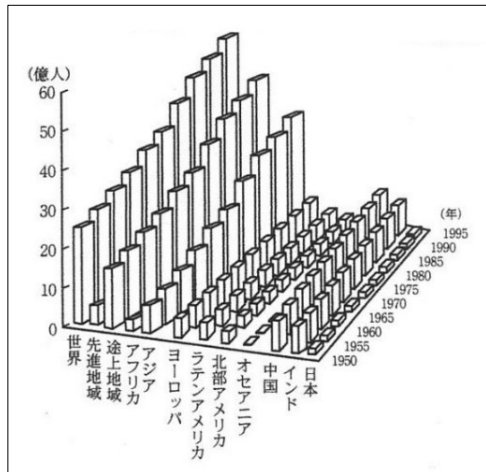
増加する国	※英国、インドは増加後に減少に転じる			減少する国	2020年	2050年	2100年
	2020年	2050年	2100年				
米国	3億3500万人	3億7500万人	3億9300万人	中国	14億2300万人	13億1600万人	7億7100万人
英国	6600万人	7100万人	7000万人	韓国	5100万人	4500万人	2400万人
豪州	2500万人	3200万人	3800万人	ドイツ	8300万人	7900万人	6800万人
インド	13億8900万人	16億6800万人	15億3300万人	日本	1億2600万人	1億 400万人	6200万人

作成：国連のWorld Population Prospects 2022を元に作成。日本のデータは将来推計人口資料から。

いずれも中位推計。100万人未満は切り捨て。

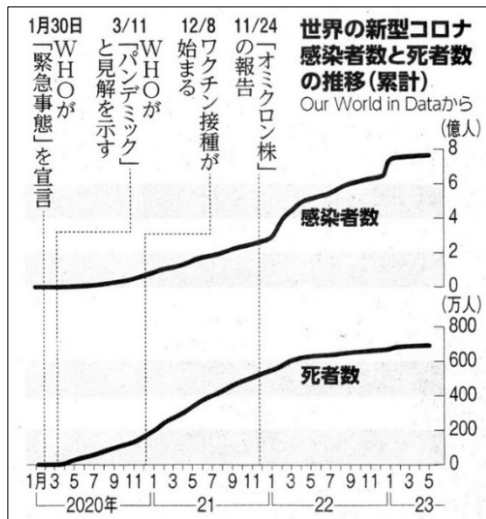
資料：読売新聞 2023.4.27

図11 世界、主要地域、主要国別人口の推移



資料：United Nations 1998

図12 世界の新型コロナ感染者数と死者数の推移（累計）



資料：朝日新聞 2023.5.7

地球居住が当面している問題

21世紀初頭、地球に居住する80億人に対して気候変動、感染症（新型コロナウイルスなど）、食糧・エネルギーなどいくつかの難題が併走しています。

特にグローバルサウスと呼ばれている南の国々ー中央アジア、アフリカ、インド、東南アジア、中南米などに地球の難題がおおいかぶさっているのが地球居住の現在の姿といえます。

この5月、広島で行われたG7の広島サミットで議長を務めた日本の岸田文雄首相は、先進地域とグローバルサウスの国々との連携を訴えましたが、21世紀の地球居住がデストピア

（ユートピアの対極）にならずに、健全な姿を実現してほしいと願います。

世界の人口史

第I期 自然時代の人口期

人類誕生、農業社会以前

- 600～500万年前、チンパンジーとヒト分化
- 東アフリカの大地溝帯に出現
- 18万年前 原人出現、火の使用、言語使用
- 250万年前 直立二足歩行
- 5万年前にオーストラリアに移住
- 新人 3万年前に登場
- 人類史の99.5%・採集狩猟時代

旧石器時代の世界人口

時期	居住人類	世界人口
原始旧石器時代	猿人	40万人
前期旧石器時代	原人	80万人
中期旧石器時代	旧人	120万人
後期旧石器時代	新人	600万人
終末旧石器時代	新人	8～900万人

第II期 農業革命、生産革命以降の人口期

- ① 1万年前（農業、生産革命）定住社会の出現
BC3000～500年まで
4万人～1億人 ※BC500年 1億人
- ② 1億人～2億人
AD500年～2億人
古代国家出現、古代都市ローマ100万人
- ③ 2億人～5億人
中世の物語
宗教、国を越えて広がる
- ④ 5～10億人
AD1600～1800 ※1800年 9億7800万人
地球人類共同体への移行

世界の人口（近世）

1750年	79,100万人
1800年	97,800万人
1850年	126,200万人
1900年	160,000万人

人口－農業革命以降の特徴

- ・農業革命から18世紀半ばに到る農業時代
 - ・農業革命 旧大陸、西アジアで始まる
 - ・農業革命以前（1万年前）世界人口500～1000万人
 - ・河川流域、世界最初の文明
 - ・メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明、黄河文明
 - ・人口革命 1世紀あたり5%増
 - ・定住生活、集落、都市の成立
 - ・ペスト 1347年、カスピ海沿岸の人口の8～9割死亡。
- 300年あまり（17世紀の終わりまで）ヨーロッパで流行。18世紀に入ると終息（AD1600年あたりまで）。
- | | | |
|----|------------|----------------|
| BC | 3000年 | 1400万人 |
| | 2000年 | 2700～7000万人 |
| | 1000年 | 7000～1億人 |
| AD | 500年 | 1億～2億人（2億～5億人） |
| AD | 1600～1800年 | 5億～10億人 |
- ・宗教、国を越えて広がる

第Ⅲ期 産業革命からの人口期、現在まで

- ①10億～20億人－1800～1925年
産業革命、エネルギー革命、機械の登場、医学、公衆衛生の進歩
- ②20億～30億～40億人－1925～1975年
戦争（第1次、第2次世界大戦）
人口爆発
巨大都市、巨帯都市（メガロポリス）の出現
- ③40億～80億人－1975～2022年
グローバルサウス－北半球と南半球の経済格差拡大

人口－産業革命以降の特徴

- 18世紀初頭から19世紀後半
- ・産業革命、第1次繊維工業中心、第2次鉄鋼、化学、電気、ゴムなど諸工業起こる
- 18世紀初頭から19世紀後半
- ・アメリカ独立、フランス革命、近代国家と市民社会の成立
 - ・人口転換、多産多死から少産少死へ

- ・市民革命、産業革命など経済社会の近代化

20世紀前半の世界に

第1次産業革命（イギリス、フランス）

－繊維、小資本で可。蒸気と石炭

第2次産業革命

－鉄鋼、化学、電気、ゴムなどの諸工業を起こす。電力、石炭から石油に

1875～1914年

－国家の膨張政策「帝国主義」

植民地主義と人口の動向

アジア－欧米諸国の群確割拠の地

アフリカ－資源の宝庫

イギリス、フランス、スペイン、ポルトガルなどによる植民地化

第1次世界大戦（1914年～1918年）

1917年ロシア革命

第2次世界大戦

太平洋戦争（1940～1945年）日本敗戦

第2次世界大戦後の世界人口

戦後－平和の到来

大戦前 年0.8%の人口増加率

1950年 25億人に

戦後 先進地域のベビーブーム、途上地域の死亡率の低下で人口、爆発的増加

国際人口移動と難民問題

東西冷戦後の1990年代のグローバル化－

人、モノ、カネ、情報など国境を越えて活発に動くグローバル時代に

1950～1960年 30億人

1975年 40億人

1990年 52億人

1999年 60億人

2022年 80億人

資料：「人口大事典 日本人口学会編」培風館

2002.6.12初版

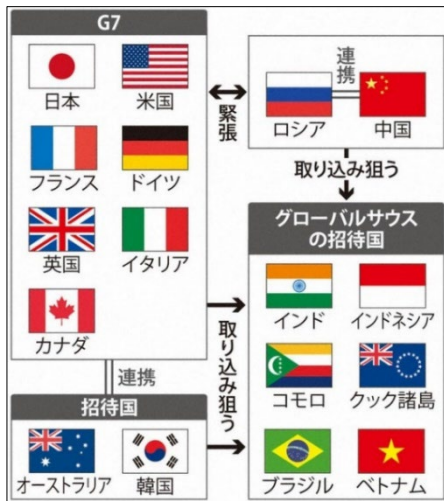
資料：「人口尺度論－居住環境の人間尺度」戸沼幸市

彰国社 1980.12

3. G7広島サミット

日本（岸田文雄首相）が主催した今年のG7広島サミットが5月19日～22日の4日間、広島で行われました。出席者はG7（カナダ、米国、英国、フランス、ドイツ、イタリア、日本）の他、招待国（オーストリア、韓国）、グローバルサウスの招待国（インド、インドネシア、コモロ、クック諸島、ブラジル、ベトナム）の代表者でした。

図13 G7サミットを巡る各国の構図



資料：毎日新聞 2023.5.22

そして、これにウクライナのゼレンスキー大統領が途中参加し、ロシアのウクライナへの不当な侵攻がクローズアップされることになりました。参加各国首脳は、平和記念公園の原爆慰霊碑に献花し、原爆資料館を訪れ、原爆の非人道性、核戦争と隣り合わせの現在の地球居住の危うさを感じたに違いありません。

写真1 原爆資料館屋原爆慰霊碑訪問のゼレンスキー氏（5月21日）



資料：朝日新聞 2023.5.22

現在、世界の原子爆弾はアメリカ、ロシアなど9カ国が1万2500発保有しているといわれています。

以下は岸田首相によるG7広島サミットの総括です。

G7広島サミットの議題は〔国際秩序〕法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を堅持し、平和と繁栄を守り抜く決意を世界に示す。それが今年の主要7カ国（G7）議長国である日本に課せられた使命だ。G7と招待国などの拡大会合で、国際法や国連憲章の原則に基づく公正で恒久的平和を支持し、力による一方的な現状変更の試みは認められないことで一致。

〔核軍縮・不拡散〕

核戦争が人類そのものを破壊しかねないものがあることを被爆地・広島から訴え続けていかなければいけない。悲惨な結末を何としても避けるため、核兵器のない世界という未来への道を着実に歩む必要がある。

〔ウクライナ〕

G7とウクライナの揺るぎない連携を示し、法の支配に基づく国際秩序を守り抜く決意を世界に示せた。一日も早くウクライナに公正かつ永続的な平和をもたらすべく努力する。

〔中国〕

G7で中国と率直に対話し懸念を直接伝える重要性で一致し、対話を通じて建設的かつ安定的な関係を構築する用意があるとの認識を共有した。

〔世界経済など〕

世界はウクライナ侵略など危機に直面しており、グローバルサウスと呼ばれる新興国、途上国が甚大の影響を受けている。G7として世界経済を力強くけん引して、持続的な成長の実現のための取り組みを主導することを確認した。

参照：岸田首相記者会見（要旨） 毎日新聞 2023.5.2

21世紀の世界の動向と日本の立ち位置が、人口問題を含んで改めて問われる時代となりました。